

要注意外来生物リスト（哺乳類・鳥類）（案）

1．要注意外来生物リスト作成の目的

生態系等への影響が文献等で指摘されている外来生物について、今回の特定外来生物の選定作業では、以下の 及び の理由から、特定外来生物に選定されなかったものに関し、被害の予防に役立てることを目的に、注意を要する外来生物のリスト（要注意外来生物リスト）として環境省において公表することにより、それらの外来生物を利用する関係者に影響の内容を周知し、利用に当たり生態系等に係る被害を予防するため管理されている施設や場所以外に逸出、遺棄しないようにするなど取扱いに際して留意すべき事項を掲げて注意を喚起するとともに、さらなる知見の集積を図る。

（参考）「中央環境審議会外来生物対策小委員会岩槻委員長談話」抜粋

「外来生物問題に予防的に対処する観点から、特定外来生物には指定されていないものの生態系等に被害を及ぼす懸念があるものについて、要注生物リストといったものを作成する必要がある。そうしたリストが公表されることにより、関係者が日頃より外来生物の使用に関心を持ち、さらなる知見が集積され、被害の予防に役立つようになることが期待」

【今回、特定外来生物に選定されなかった理由】

被害に係る科学的知見はあるが、広範に販売・飼養等がなされ、現時点で効果的な規制を行うことが難しいと判断される。

被害に係る科学的知見が不十分であり、さらなる知見の集積が必要である。

2．要注意外来生物リストの内容

（1）特に注意を要する外来生物

- ・上記 1 の理由から特定外来生物に選定されなかった外来生物を掲載する。ただし、特定外来生物の候補として具体的な選定作業が継続して行われる外来生物については、要注意外来生物リストに掲載せず、別途継続検討中の生物として取り扱う。
- ・生態系等に係る被害の内容及び取扱いに際して留意すべき事項を別途個票にとりまとめてリストに添付する。

（2）注意を要する外来生物

- ・生態系等に係る被害を予防するため、利用に係る取扱いに際して注意を喚起するとともに、さらなる知見の集積を図った上で被害について判定する必要がある外来生物。
- ・上記 1 の理由から特定外来生物に選定されなかった外来生物をリストに掲載する。

3．要注意外来生物リストの公表

学識経験者の意見を踏まえて作成したリストについて、環境省において公表する。

公表に際しては、本リストの目的、取扱いを明記し、掲載種が外来生物法の規制の対象でないことも付記し、外来生物の利用者に混乱を与えないよう留意するものとする。

要注意外来生物リスト(哺乳類・鳥類)(案)

1. 特に注意を要する外来生物

目名	科名	和名	学名	文献等で指摘されている影響の内容	備考
キジ	キジ	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	別添個票参照

2. 注意を要する外来生物

目名	科名	和名	学名	文献等で指摘されている影響の内容	主な参考文献	備考
モグラ	ハリネズミ	ナミハリネズミ	<i>Erinaceus europaeus</i>	生態系(競合・駆逐・捕食)	5,6	飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないよう、関係者に普及啓発を行うことが重要。
サル	オマキサル	リスサル	<i>Saimiri sciureus</i>	生態系(競合・駆逐)	6	
ネズミ	リス	キリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	6,8	
		チョウセンシマリス	<i>Tamias sibiricus barberi</i>	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	8,11	
		タイクモモンカ	<i>Pteromys volans</i>	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	8	
ネコ	イタチ	フェレット	<i>Mustela furo</i>	生態系(競合・駆逐・捕食)	1,6,9	
		アメリカミンク	<i>Mustela vison</i>	生態系(競合・駆逐・捕食)	2,3,4,6,10	
ウシ	シカ	シカ属(8種) 全種	<i>Cervus</i> spp <i>C. albirostris</i> , <i>C. canadensis</i> など	生態系(遺伝的攪乱)	4,7,8	

在来のニホンシカを除くシカ属全種全亜種(外国産の*C. nippon*も含む)

主な参考文献

- 1 Byrom, A. E. (2002) Dispersal and survival of juvenile feral ferrets *Mustela furo* in New Zealand, *J. Applied Ecology*, 39:67-78.
- 2 Ferreras, P. and Macdonald, D. W. (1999) The impact of American mink *Mustela vison* on water birds in the upper Thames, *J. Applied Ecology*, 36(5):701-708.
- 3 北海道生活環境部自然保護課 (1985) 野生動物分布等実態調査報告書-野生化ミンク-, 北海道生活環境部自然課
- 4 池田透(1998) 移入哺乳類の現状と対策, 遺伝, 52:37-41.
- 5 Landcare Research (2003) A prickly whodunit: Predation by hedgehogs on native fauna, *Kararehe Kino Vertebrate Pest Research*, Issue 2:1-3.
- 6 Long, J.L. (2003) *Introduced Mammals of the world*. CABI Publishing, 589p.
- 7 Lowe, V.P.W. and Gardiner A.S. (1975) Hybridization between Red deer (*Cervus elaphus*) and Sika deer (*Cervus nippon*) with particular reference to stocks in N.W. England. *J. Zool.* 177:553-566.
- 8 日本生態学会(編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 390pp.
- 9 Norbury, G.L.; Norbury, D.C.; Heyward, R.P. (1998) Behavioral responses of two predator species to sudden declines in primary prey. *J. Wild Mgt* 62(1): 45-58.
- 10 Norodstorm, M., Hogmander, J., Laine, J., Nummelin, J., Laanetu, N., and Korpimaki, E. (2003) Effects of feral mink removal on seabirds, waders and passerines on small islands in the Baltic Sea, *Biol. Conservation*, 109:259-368.
- 11 自然環境研究センター (1998) 野生化哺乳類実態調査報告書, 161p.

「特に注意を要する外来生物（鳥類）」（案）

インドクジャク

インドクジャク (*Pavo cristatus*) に関する情報

原産地 インド、スリランカ、バングラデシュなど

定着実績 宮古島、小浜島、石垣島などに定着している

被害の事例

生態系に係る被害

- クジャクが高密度で生息している小浜島では、トカゲ類などの小動物が激減しており、クジャクによる捕食の被害が懸念されている（文献 ）。

被害をもたらしている要因

(1) 生物学的要因

- 大型の鳥類で、主に地上で穀物、昆虫、爬虫類、果実など様々なものを採食する。

(2) 社会的要因

- 姿が美しいために学校、公園施設などで飼育されることが多い。先島諸島では、観賞用に飼育されていた個体が逸走して定着したとされる。

特徴ならびに近縁種、類似種などについて

- 雌は地味であるが、雄は非常に発達した上尾筒（腰の部分の羽毛）を有し、成鳥で長さ約1.5m、全長は2.3mにもなる。上尾筒は繁殖期が終わると毎年、換羽する。
- マクジャク (*P. muticus*) は、インドネシア、マレーシアなどに分布する。

その他の関連情報

- アメリカ、オーストラリア等でも野外に定着している。ただし生態系被害、農業被害などに関する報告は少ない。
- 近年になり先島諸島で多数の野生個体が目撃されるようになった。リゾート施設、小学校などから飼育個体が逸脱したものと考えられる。
- 飼育下繁殖は比較的容易であり、国内で増殖された個体が譲渡され多数飼育されている。輸入はあるものの多くない。
- 動物園や個人の庭園などで放し飼いにされている例が多く、逸走が比較的多いと考えられる。
- 公園施設、学校等で多数が飼育されているが、飼育施設の分布や飼育下の個体数などは把握されていない。よって、現時点では規制を徹底させることが困難である。
- 飼育者に対する飼育管理の注意の喚起等が必要な外来生物である。

主な参考文献

Eguchi, K. and Amano, H.E. (2004) Invasive birds in Japan, Global Environmental Research, 8:23-28.

Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Spread of exotic birds in Japan, Ornithological Science, 3:3-12.

Long, J. L. (1981) *Introduced Birds of the World*, Reed, Wellington, 528p.

田中聡・高原健二 (2003) 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について , 沖縄県立博物館紀要 , 29:19-24 .